

金曜日の会 報告

- 1 期日 6月26日
- 2 倉敷労働会館
- 3 参加者 O AR AK AS YO
- 4 内容

『世界でいちばんやかましい音』問題作り・展開(AR)、映像(AK)

『走れ』映像(AS)

『風切るつばさ』映像(YO)

『世界でいちばんやかましい音』の映像からは、子どもたちが言葉をもとにしたイメージをもって発言している様子が伝わってきました。授業者が解釈をもち、音に絞って時系列で追う展開が良かったです。子どもたちが生き生きとした表情で全員参加していくこととイメージが入っていることとの関係は大きいです。そのための教師の解釈とイメージの大切さ、学びの多い映像でした。

『走れ』、何よりも続けて映像を提供した浅越先生の姿勢に刺激を受けました。子どもからは、美味しい言葉が出ています。『そのまんまは、いらぬ。』を捉えて、『そのが何を指すのか?』と問題にしていけば、新たな展開が見えてきます。子どものそんな何気ない一言をキャッチする感覚を、私も持ちたいと思いました。子どもたちの読みは、直さなくてはなりません。低学年的な読みは、機械的で、イメージや豊かさに繋がらないからです。

『風切るつばさ』では、『何もかもが信じられない。』と『今まであたりまえだったもの全てが一変した。』との関係を考えました。また、そこには『カララでさえ』が原因となっているのですが、その言葉だけの扱いだと薄いものになります。やはり、『だまって』『交じっている』を読むことが『でさえ』に深みをますことに繋がると分かりました。一通り終えた後、もう一度7段落からチャレンジしてみようと思います。

子どもの意見が『見える』『使える』ようになるための解釈をもっと学んでいきたいと思いました。YO